

ララミーから来た男 (1955)

THE MAN FROM LARAMIE

メディア 映画

ジャンル 西部劇

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 102分

初公開日 1955/03/15

公開情報 COL

【解説】

マン監督とスチュワートの黄金コンビの西部劇の面白さは、人間的なジミーが暴力の価値に最後まで否定的なのに、それが活劇自体の面白さと違和感なく結ばれていることで、ロケーションの工夫も常にあり視覚的驚きにも事欠かない。本作はD・クリスプ親子の確執に、流れ者のジミーが絡む形で、話の焦点がうまく絞られきらない弱味があるが、大地主のクリスプに反抗する女性牧場主の描き方など、場面にすれば僅かでも、非常にリアルで感心する。ララミーからやって来た元騎兵隊大尉ロックハートは運送業の配達で、アパッチによって弟が命を落とした土地に近い、地主ワグマン支配下の町にやってくる。その老人はかなり強引にのしてきた暴君ではあったが、目を病んで病気になり引退を考えていた。東部出身の妻の虚栄のうちに育てられた息子デイヴはわがままで乱暴で手に負えず、実子のように目をかけているヴィク（ケネディ）が頼みの綱だが、いざとなると息子が可愛い。デイヴに襲われ馬車を焼かれ、ラバを何頭も撃たれ廃業やむなしとなったロックハートは、ヴィクの恋人でデイヴとは従姉妹同士のバーバラに魅かれたこともあり、しばし当地に留まることにした。そのうち、密偵に雇った老人からの情報で、アパッチに通じる者の姿が浮かびあがってくる。彼はデイヴの度重なる嫌がらせに耐え、ワグマンに譲らず自分の小さな牧場を守り続ける老女ケイトを手伝いながら、真相解明の機会を待つが……。アクション場面として面白いのは牛の群れの中でのジミーVSケネディの殴り合い。それから目の効かないクリスプが馬に乗ってジミーと対決しようとする、馬上からのショットにはハッとさせられる。彼とケイト役のA・マクマホン、二老優がとにかく健闘。単なる勧善懲悪でなく、陰々滅々でもない、見応えのあるウェスタンだ。

【クレジット】

監督	アンソニー・マン	Anthony Mann	
製作	ウィリアム・ゲッツ	William Goetz	
原作	トーマス・T・フリン	Thomas T. Flynn	
脚本	フィリップ・ヨードン	Philip Yordan	
	フランク・バート	Frank Burt	
撮影	チャールズ・ラング・Jr	Charles Lang Jr.	
編集	ウィリアム・A・ライオン	William A. Lyon	
音楽	ジョージ・ダニング	George Duning	
	モリス・W・ストロフ	Morris W. Stoloff	
出演	ジェームズ・スチュワート	James Stewart	ウィル・ロックハート
	アーサー・ケネディ	Arthur Kennedy	ヴィク・ハンスブロー
	キャシー・オドネル	Cathy O'Donnell	バーバラ・ワゴマン
	ドナルド・クリスプ	Donald Crisp	アレック・ワゴマン
	アレックス・ニコル	Alex Nicol	デイヴ・ワゴマン

アリーソン・マクマホン	Aline MacMahon	ケイト・キャナデイ
ウォーレス・フォード	Wallace Ford	チャーリー・オリアリー
ジャック・イーラム	Jack Elam	クリス・ボールド
グレッグ・バートン	Gregg Barton	フリッツ
ジョン・ウォー・イーグル	John War Eagle	フランク・ダラス
ジェームズ・ミリカン	James Millican	トム・クイグビー
フランク・デ・コヴァ	Frank de Kova	神父